

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京医科歯科大学

前期日程

科目

生物

総括

試験時間	2科目 120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

例年と同じ長大なリード文にからめた総合問題。
設問の分野がかなり偏っている点、空所補充・用語記述・論述・描図など出題形式が多様である点も例年と同じ。
昨年に比べて論述量はやや減少した。

〈特記事項・トピックス〉

昨年に続き、植物関連の出題がなかった。
選択分野については、生物の集団に関する出題がなく、進化・系統分類の出題が目立った。
リード文中の空欄に適する語を答える形式は、過去3年に見られないものであった。
解答に必要な用語や情報を文中から探さなくてはならない出題が目立ち、日本語を読む速度の速い受験生が有利だったと思われる。
与えられたデータをグラフにして考察する設問が2年続けて出題された。

〈合格への学習対策〉

設問に直結しない部分が多いリード文から、解答に必要な情報を見つけることを要求されるため、全体を素早く読んでアウトラインを大まかに理解する力と、細部を正確に理解する力の両方を身につけることが重要である。
この出題形式には慣れが必要なので、本学の近年の過去問を解くことが必須であり、できるだけ予想問題なども経験しておきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
問題1	記述	Ⅱ	系統分類	動物の分類群に関する知識を求める設問。	易
問題2	記述 論述 描図	I・Ⅱ	総合問題	様々な分野の設問で構成されている。2) では選択分野である進化の知識に基づく推論、4) は同じく進化に関する用語記述であった。	標準
問題3	描図 論述	I・Ⅱ	生体防御・免疫	1) で、データからグラフを描き、2) で、そのグラフを利用して考察、論述する設問。様々なグラフを描くことが可能であり、受験生にとって悩ましい出題だった。特定のグラフだけが正解とされるのではなく、考察内容が明確になるグラフであれば許容されたと考えられる。	標準
問題4	論述	I・Ⅱ	遺伝・遺伝子と形質	マーモセットの色覚に関して、リード文から読み取った内容を元に考察して論述する設問。色覚を担う遺伝子が対立関係にある点がヒトとは異なる上、X染色体の不活性化も含めて考察しなければならず、受験生にとってハードルが高かったと思われる。	やや難
問題5	論述 描図	I・Ⅱ	聴覚器の進化 聴覚器の形態	1) はリード文を読み取って整理する設問。文中の用語の使用を求められており、探すのに手間取った受験生がいたかもしれない。2) の描図は哺乳類は受験生にとって見慣れたものであったが、両生類の方はリード文の内容から描く必要があり、読解力によって差がついた可能性がある。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。